



E.D.I.

環境デザイン研究所  
ENVIRONMENT DESIGN INSTITUTE

基本データ

所在地／

神奈川県横浜市都筑区早渕2-3-77

発注者／(学) 渡辺学園, (社) 光と風の村

主要用途／認定こども園

設計／建築・外構・遊具

敷地面積／2,433.50m<sup>2</sup>

建築面積／962.77m<sup>2</sup>

延床面積／1,540.45m<sup>2</sup>

構造・規模／

RC造 2階建て

基本計画／

2003年7月～2003年9月

基本設計／

2003年10月～2003年12月

実施設計／

2004年1月～2004年7月

施工期間／

2004年9月～2005年3月

受賞歴／

神奈川建築コンクール最優秀賞

(2006年10月)

東京建築賞優秀賞(2007年5月)

キッズデザイン賞(2007年8月)

DesignShare賞名誉賞(2007年10月)

グッドデザイン賞(2007年10月)

造園作品選集(2008年3月)



メインエントランス



外観



大ネット



0-1歳児保育室

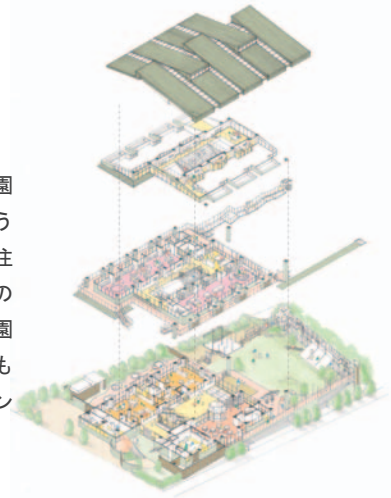
『EDI REPORT』では、竣工物件のプロジェクト概要と、設計・監理時の配慮点などについて 2009.12.25 随時、設計担当者からご報告していきます。

## ゆうゆうのもり幼保園

(環境設計部：浅井淳)

### ▶ 横浜市初の幼保園

「ゆうゆう(悠遊)のもり幼保園」は横浜市で最初の保育所と幼稚園の機能を融合した施設です。「総合施設」のモデル事業として行う全国36施設のうちのひとつとなっており、全国的にも非常に注目された施設となっています。1階は0, 1, 2歳児、2階は3, 4, 5歳児の部屋となっています。「ゆうゆうのもり幼保園」はこれまでの幼稚園や保育所とは違い、親の就労状況などの区別なく、こどもがこもらしく育つことを第一に考える施設で、以下の3つの柱を基本コンセプトとしています。



### ▶ 設計コンセプト

1. 「こども主体の保育」を実現できる環境づくり：さまざまな場面を通して、こどもが心を動かし、自発的に行動したくなるような環境づくりを行っています。
2. 園児との関わりを重視した保育士や先生の拠点：保育室やこどもたちの状況を見渡せ、園児と身近に関わることのできるような位置に保育士や先生のナースステーションを設置し保育空間の核とします。
3. 発達段階に合わせた多様な環境-遊環構造-：こどもたちがあそびやすい空間で、ポラス(穴があいている)、めまい体験や近道、シンボルや広場などの変化に富んだ回遊動線(遊環構造)を動線計画の中心とします。

### ▶ あそびが生活: 保育室と大ネット

施設全体にわたるあそび装置：こどもにとってあそびは生活そのものであり、あそびを通して知性や情操、社会性など人間としての基礎を育てていきます。こども達の創造性や想像力を育む、驚きや発見がある、周囲とのコミュニケーションを高める、そのようなあそび・生活環境づくりが重要と考えました。

1階の乳児室、2歳児室ともに段差のないワンルーム空間とし、低い可動式の家具でコーナーづくりが容易にできます。3-5歳児室は大きな間仕切り戸によって人数や状況に合わせた広さに変えることができます。吹き抜けの中央の空間には、こどもが活発にあそびたくなるような仕掛け、2階と上部のキャットウォークをつなぐ「大ネット」が展開しています。上下階を行き来したり、ネットを揺らしてブランコとしてあそんだり、ハンモックとして寝転んだりと自由な発想でいろいろなあそび方が生まれる「あそびの中心」となっています。



キャットウォークとつながる大ネット



こどもエレベータ



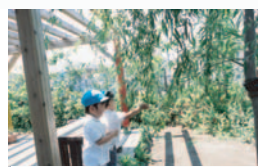
3-5歳児保育室

### ▶ 外構、インテリア、遊具等

植栽計画：新緑、花、実、紅葉、様々な色や形の葉、昆虫や野鳥など、植栽計画では四季と共に自然を発見できるよう配慮しました。

おとなの居場所：幼児施設は保護者にとっても重要な交流と学びの場所です。園入口前の小さな広場や園舎の大階段下は大きなベンチを設置し、談話コーナーとなっています。また、地下室は様々な活動に対応できるように広さを確保し、外部からの専用出入口も設けています。

回遊性園庭遊具：2階保育室のベランダから屋外木製遊具へそのまま連携し、自然に外へ遊ぶことができます。



パーゴラ



小広場



乳児園庭



回廊型園庭遊具